国際理解教育/開発教育　学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	鎌田　理子	学校名	千葉市立稲浜中学校
教科（科目）・領域	社会科	対象学年（人数）	１年生　　（108 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2022 年 12 月第１週～第２週　（６時間）	

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：　世界の諸地域　南アメリカ州

2. 実践する教科・領域：

社会科　地理的分野

3. 学習領域

	1	2	3	4
A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：

・南アメリカ州の地域的特色を諸資料から適切に読み取り、理解する。

・今後の南アメリカ州の環境問題について「持続可能な開発」の観点から自分の考えをまとめることができる。

5. 単元の評価規準	①知識及び技能	・南アメリカ州の地域的特色を諸資料から適切に読み取り、理解している。 ・課題解決に向けて必要な情報をまとめ、発表できる。
	②思考力、判断力、表現力等	・南アメリカ州で見られる環境問題の要因や影響を、地域特性を踏まえ、多面的・多角的に考察している。 ・南アメリカ州の開発に起因する環境問題の解決に向けて、持続可能な開発の観点から説明している。
	③学びに向かう力	・南アメリカ州の環境問題と自分たちの暮らしとのつながりを知って環境問題への関心を深め、解決への手立てを考えようとする。

6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 「世界の諸地域」では、地球上の６つの州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取りあげ、それを基に「主題」を設けて追究させ、それぞれの州の地域的特色を捉えさせる。各州の学習では、自然環境、歴史と文化、産業などの面から「主題」を軸に州の特色を追究させる。その州に広範囲に見られる特色ある地理事象を取り上げるが、南アメリカ州は「開発の進展と環境問題」を主題とする。距離的に遠く日ごろからつながりをあまり意識していない地域の環境問題について考えることをねらいとして、本単元を設定した。 【生徒観】 １学年の生徒は小学校の社会科でSDGsについて学習しており、中学校の社会科の導入でSDGsに触れた際にも「知っている」「小学校で習ったことがある」という声が多かった。本校は２つの小学校から生徒が入学してきているが、２校間の生徒にSDGsの知識の差はほぼないようである。小学校時代に具体的にSDGsの実現に向けて何かの活動に取り組んだことがあるという生徒はいなかったため、１７のゴールについて表面的な知識がもつことに留まっている。地理的分野の世界の諸地域では、アフリカ州とヨーロッパ州の学習を終えているが、その際に「諸地域の課題を自分の生活にもつながる問題としてとしてとらえられたか」という単元末の質問について「考えられた」と答えた生徒がアフリカ州の学習では４０％、ヨーロッパ州の学習では５９％とやや低い値であった。 【教材観】 １学年生徒に対して「世界の諸地域」の６つの州のうち、どの地域とのつながりをもっとも感じるかというアンケートを行った際に、南アメリカ州の数値がもっとも低かった。過去に授業者が他校で同じアンケートを実施した際も同様の結果が出た。これは地理的・歴史的なつながりが少ない地域であるが故の結果だと考えられる。持続可能な社会の創り手となるためには、日ごろから世界の課題を自分の身近な生活とのつながりから考える視点をもつことが大切である。生徒は、地理的にはもちろん心理的にも遠い地域と考えている。そのような南アメリカ州について考えるという地理の学習を通して、課題を自分ごととして捉える姿勢を身に付けてほしいと考えている。 【指導観】 既に学習したアフリカ州の単元では、エチオピアで勤務する日本人をゲストティーチャーとしてお招きし、その暮らしについて話をしてもらったことが生徒の興味関心を高めるうえで効果的であった。広い州の例え一か国の限られたゲストティーチャーの話であっても、生徒にとって、それまで「遠く、自分とは直接関係ない」と考えていた地域のことを自分ごととして考えるきっかけになっていた。そこで、今回の南アメリカ州も、現地で勤務する日本人の協力を得て、日本の自分たちの暮らしとのつながりを考えられるような活動を取り入れたい。実際に協力していただくのは、現職派遣制度を使ってJICAボランティア2022年度一次隊に参加されている２名の教員で、ボリビア日系社会の小学校に携わる稲嶺もえ先生、同じくチリで環境教育に携わる吉田大祐先生である。まずは、自然環境、歴史、文化、産業などの面か南アメリカ州を教科書を使用して概観する。その後、ゲストティーチャーをオンライン上でお招きする第３時では、ボリビアの日系社会について稲嶺先生からお話を聞き、第５時、第６時では吉田先生にチリにおける環境問題とそれに対する様々な意見を開設していただき、それらを資料として扱う。

7. 単元計画（全　6　時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
1	「南アメリカ州をながめて」 南アメリカ州の基礎的基本的な知識を身につける。	・南アメリカ州の雨温図と南アメリカの降水量を表した地図を照らし合わせ、リマ、ラパス、マナオス、ブエノスアイレスの位置を考える。 ・アンデス山脈、チチカカ湖、アマゾン川、などの主要な地形が載っている白地図を完成させる。 ・南アメリカの人口密度を表した地図を見て、人口密度が低いところと高いところの特徴を考える。	・南アメリカ州の４地点の雨温図 ・南アメリカ州の降水量を表した地図 ・南アメリカ州の国々の SDGs 達成度ランキング（2022） ・南アメリカ州の

		・世界の森林減少率の図を班で分析し、森林減少率が高い国や地域を確認する。 ・教科書に載っている「トライ」の課題「南アメリカ州ではなぜ森林が減少しているのでしょうか」の答えを予想する。	衛星写真 ・世界の森林減少率のグラフ
2	「自然環境と共生する生活」 南アメリカ州の自然環境の特色を理解し、その伝統的な利用方法を知る。	・アマゾン川の河口の写真から気づくことを発表する。 ・マナオスの魚市場、熱帯の森林の中に造られた畑の模式図の資料からアマゾン川流域の伝統的な暮らしについて班でまとめて発表する。 ・伝統的な焼き畑農業が大規模な森林破壊につながらなかった理由を考える。 ・ガラパゴス諸島のエコツアーについての解説を聞き、なぜ自然環境の保護を推進しているのか自分の考えを書く。	・南アメリカ州の衛星写真 ・アマゾン川流域の伝統的な生活の写真 ・アマゾン川の漁師のコメント ・ガラパゴス島でのエコツアー資料
3	「南アメリカで活躍する日系人」 日系人について知り、日本と南アメリカ州の歴史的なつながりを考える。	・世界の日系人の分布とサンパウロの日本人街での七夕まつりの様子の写真について気づいたことを班ごとに発表する。 ・NHK for School の日系移民についての短編動画を視聴する。 ・多くの日系移民が南米に渡った背景に南米での農業労働者の不足や日本での人口押下と深刻な不景気が影響していたことについての解説を聞く。 ・ゲストティーチャーの稲峯先生のお話を Google Meet 上で聞く。 ・稲峯先生に質問をして、回答を聞く。	・ゲストティーチャー稲峯先生（2022 年度一次隊小学校教育）の解説 ・ボリビアの日系人街「オキナワ」の「オキナワ第一日ボ学校の様子の写真 ・「オキナワ」の町の動画
4	「開発の進行と影響①」 アマゾン川流域を例に、南アメリカ州の環境問題と開発のバランスについて考える。	・1990 年と 2000 年の南アメリカの衛星写真を比べ、変化した点について考える。 ・大規模な大豆畑の写真と、大豆の生産量と輸出量の国別割合のグラフを見て、前時の焼畑農業との違いを考える。 ・日本の銅鉱石と鉄鉱石の輸入相手国のグラフを見て、南アメリカの国々（銅鉱石輸入１位、ペルー銅鉱石輸入２位、鉄鉱石輸入2位)に着色し､南アメリカの国々と日本の関係についての考えを書く。 ・銅鉱石１位のチリに注目し、鉱山開発の街とその産業廃棄物を受け入れているイジャペル市についての紹介を聞く。 ・イジャペル市の産業廃棄物がもたらす健康被害、アボカド栽培がもたらす地下水の枯渇について知る。	・1990 年と 2000 年の南アメリカの衛星写真 ・大規模な大豆畑の写真と ・大豆の生産量と輸出量の国別割合のグラフ ・日本の銅鉱石と鉄鉱石の輸入相手国のグラフ ・JICA ボランティア 2022 年度第 1 次隊共有写真教材
5 本時	「開発の進行と影響②」 南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考える。	・ゲストティーチャーの吉田先生のお話を Google Meet 上で聞く。 ・チリの北部イジャペル市と首都サンティアゴの２地点の産業の違いについての地図と資料を見る。 ・イジャペルとサンティアゴでのインタビュー資料を見て、経済発展を優先するか、環境保全を優先するかという議論がチリ国内にもあることを考える。 ・憲法改正の国民投票の環境保全の部分についての解説を聞く。	・ゲストティーチャー吉田先生（2022 年度一次隊環境教育）の解説 ・チリの憲法改正国民投票開票時の様子の写真 ・北部イジャペル市、首都サンティアゴ、南部グレプト市の住人

		・ゲストティーチャー吉田先生から投票結果についての解説を聞き、自分の考えを発表する。 ・地域により環境保全に対する考え方が違う理由を考えて発表する。	のインタビュー結果
6	「日本と南アメリカ州のつながり」 南アメリカ州における環境問題と自分たちの暮らしのつながりを知り、今の自分にできることを考える。 【予想される回答】 ・アボカドのような南アメリカ州からの輸入品の栽培が現地の環境にどのような影響を与えているかなどを、まず知ることが大切なのではないか。 ・輸入品は現地での生産過程で、イジャペル市の産業廃棄物の例のように何かしらの影響を与えているので、無駄なく日本で使うことが大切ではないだろうか。 ・吉田先生を通して日本の中学校で学んだ環境保全の取り組みを現地のモデル校の生徒に伝えてもらうことはできないだろうか。	・前時に使用した資料を見て、イジャペル市の鉱山の有害物質廃棄物処理場が地域住民に与えている影響を振り返る。 ・ウェビングマップを改良したものを記入する。（①鉱工業開発②現地の人々の生活に伴う開発③開発に関係する国々） ・イジャペル市の中学校で使う教材にどのようなものを付け足したらよいか考えて班ごとにホワイトボードに記入し発表しチリ在住の吉田先生にオンラインでコメントをもらう。 ・イジャペル市の環境教育モデル校での SDGs 壁画作成の取り組み（2023 年予定。開始時期未定）にどのようなメッセージを送りたいか考える。 ・日本の自分たちの暮らしの中でできる環境保全の取り組みとイジャペル市でできそうなことの共通点を見つける。 ・南アメリカ州の学習を通して、SDGs のどの目標について特に考えたか、またどの目標を重視して行動するかをアイコンを使って考えてワークシートに記入する。	・ゲストティーチャー吉田先生（2022 年度一次隊環境教育） ・吉田先生がイジャペル市で使用している環境教育の教材

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考える。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （5分）	1　前時の振り返り 「これらの写真はどこの町のものでしたか？どんな問題を抱えていましたか？」 ・チリのイジャペル市の写真 ・時間がたって乾いた銅の山が近年砂状になって人里まで飛んで健康被害を生み出している。 「スーパーでよく見かけるこの食べ物とイジャペル市の川の関わりとは何ですか？」 ・お金になる作物としてアボカド栽培が広がっており、大量の地下水が使われているため川の水が枯渇している」 「現地のごみ処理や環境教育について吉田先生はどのような活動をしていましたか？」	・本時につながる部分を確認する。	・前時で使った写真資料（鉱山廃棄物の様子、イジャペル市内の様子、枯れた川の様子） ・アボカド（実物） ・イジャペル市で勤務

	・リサイクルの啓発活動 ・環境モデル校での環境教育のプログラム作り ・環境モデル校の生徒への授業 ・市内の自然環境の保全についての啓発活動		する吉田先生の自己紹介
展開① （30分）	2　本時の目標の確認 チリの首都サンティアゴと鉱山の町の人の意見を比比較し環境問題と経済発展について考えよう 3「ゲストティーチャー吉田先生のお話を Google Meet で聞きましょう。」 ・首都の様子の紹介…短期間の滞在であったがあまり日本と変わらない暮らしをしている人が多い印象だった。第 3 次産業の従事者が多い。人口密度も高い。 ・イジャペル市の様子の紹介…鉱業に従事している人が多い。非常に乾燥した気候で、農業による水不足も問題になっている。鉱山の廃棄物処理場があるのでそこからの汚染も問題になっている。	・吉田先生はチリに暮らしてまだ 4 か月ということを確認する。	・サンティアゴの写真と動画（約９０秒） ・イジャペル市の写真と動画（約９０秒）
	4「みなさんをそれぞれイジャペルと首都サンティアゴの２つの地域の住人という設定のグループに分けました。班内で話し合って『環境保全は重要だと思うか』という質問に５段階で回答し、黒板にマグネットを貼ってください。 【予想される話し合い】 ・イジャペル市では環境汚染がひどいので、環境保全は大事だと思う人が多いのではないか？ ・イジャペル市の人々には健康被害が出ているので環境保全が大切だと思う人の割合は特に高いのではないか。 ・サンティアゴは首都なのでごみや排気ガス問題などもきっとあり、環境保全に対しての意識が高いのではないか？	・クラスを 8 班に分け、サンディエゴ市民４班イジャペル市民４班とする。	・赤マグネット（首都）×４ ・黄マグネット（鉱山の町）×４ 「環境保全は重要だと思うか」の５段階のスケール
	5「経済発展を優先するか、環境保全を優先するかという議論がチリ国内にもあることについて		

	の吉田先生の説明を聞きましょう」 ・サンティアゴの都市部では環境保全を重視するべきであるというデモも起きている。 ・サンティアゴの住人の中でも意識の違いはある。 ・北部や南部の農業、鉱工業に従事する人が多い地域は環境保全のための規制に反対する人も多いとチリ人の多くは体感している。 ・イジャペル市でも自分が接している人は環境教育関係者なので、環境保全が大切だという意識が高いと感じる。	・後半で触れる憲法改正についても簡単に解説してもらう。 ・吉田先生の意見もチリをすべて表しているわけなではないということを確認する。	・Google Meet
	6「吉田先生の話を聞いて、チリは経済発展と環境保全のどちらを優先するべきかについて班内で話し合い意見をまとめ、代表者が黒板にマグネットを貼って発表しましょう。」 【予想される生徒の意見】 ・都市部の人はすでに経済発展を遂げている中で暮らしているので環境保全を重視する人が多いのではないか。 ・どちらを優先するかは同じ地域でも個人によって意見が分かれるのではないか。 ・鉱山関係の仕事をしている人は、有害物質の処理が問題になっているとわかっているがそれが規制されすぎると自分の仕事が成り立たなくなると考えるのが当然ではないだろうか。 ・その人の仕事と何を優先するかが関わってくるのではないか。	・４の活動のマグネットもそのままにしておき見比べられるようにする。	・ピンクのマグネット×８
	7「吉田先生がチリの人にインタビューした結果を聞きましょう。」 吉田先生「自分がチリで関わった一部の人たちに憲法改正案の中の環境保全についての意見を聞きました。その人が住んでいる地域と職業に注目して聞いてください。」 ①首都サンティアゴのスペイン語の先生（首都で生まれ育ち外国人にスペイン語を教える仕事を長くしている）「環境保全に賛成している」 ②イジャペル市の銅山関係の仕事をしている人「環境保全の規制が強まると仕事に影響が出るた	 サンティアゴ在住の語学教師 Chica 鉱物関係の仕事に従事 Miguel	・インタビュー結果

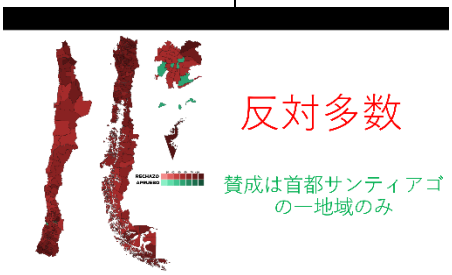
め反対」

8「憲法改正についての国民投票についての話を聞きましょう」。

吉田先生「先ほどから話に出ているように、チリでは 9 月に憲法を改正しようということについて国民投票がありました。ここを変えようというポイントがいくつかあったのですがそのひとつに『環境を守るための規則をもっと増やそう』というものがありました。他のポイントもあったので一概には言えませんが、開票結果を見ると、憲法を変えようという意見が勝っていたのはサンティアゴの一部のみでした。」

チリの情報サイト“elmostrador”

・開票結果の分布図



9「ここまでの吉田先生の話を聞いて、地域により環境保全に対する考え方が違う理由を考えて発表しましょう。」

・北部の人は銅鉱山関連の仕事に就いている人が多いため、憲法改正に反対が多いのではないか。
・銅鉱山関連の仕事と関係ない人は、環境規制に賛成の立場をとれるのではないか。
・同じ国の中でも意見が分かれる。
・環境規制を厳しくすると生活できない人もいるのではないか。
・今回の吉田先生のインタビュー以外の意見もたくさんあるのではないか。

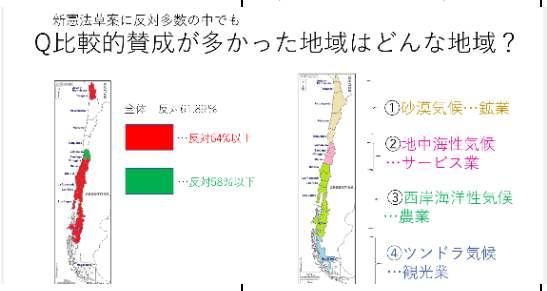
・開票の様子

10「本時を通して立場による環境保全への考え方の違いについて自分の意見を書いて発表しましょう。」

・自分は環境保全はとても大事なことで当然だと思っていたが、資源の利用が規制されると仕事ができなくて困る人もいることを知った。
・環境保全は大切なことだが、立場によってはそれに反対する人もいることがわかった。
・サンティアゴの人の環境保全に賛成の意見は自分の意見に近いと感じた。
・同じ国の中でも地域や立場によって意見が違うので複雑だと思った。

まとめ
（10分）

・地域ごとの憲法改正に対する意見の違い（スライド１８）



9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考える。（班内の意見交換・ワークシート）

10. 学習方法および外部との連携

・地理的分野の目標のひとつに「多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断すること、思考・判断したことを説明したりそれらを基に議論すること」があるが、それらを達成するためにまず基礎的な知識の習得が大切だと考える。そのために教科書を活用し、南アメリカ州の地理的な特色を理解させる。
・南アメリカ州すべての国を扱うことは不可能であるため、具体例として歴史の理解のための一例としてボリビアの日系社会、環境理解のための一例としてチリの鉱山廃棄物の問題を扱う。
・オンライン会議システムを利用し、南アメリカ州で活動している JICA ボランティア 2 名に第３時、第５時、第６時の授業に一部参加してもらった。
・チリのイジャペル市の環境教育モデル校での SDGs 壁画作成の取り組み（2023 年予定。開始時期未定）に参加を検討している。
・11 月 4 日実施の１学年校外学習において、JICA 横浜を班別活動の選択コースの１つとし、班別活動でそちらを訪れない生徒にも海外移住資料館を事前学習で紹介した。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

（１）学校内

・校内研修において実践報告を行った。

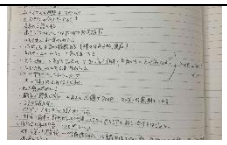
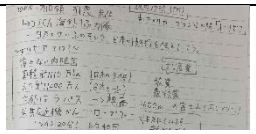
（２）学校外

・千葉市教育研究会社会科部会において「社会科の授業の中で行う国際理解教育」の発表を行った。
・千葉市教育研究会国際教育部会において「世界の諸地域南アメリカ州」の授業実践報告を行う。
・千葉県中学校初任者研修東葛飾ブロックで講師として国際理解教育の実践について講義を行い、その中で JICA 教師海外研修や地球ひろばの国際理解教育／開発教育指導者研修について紹介し、授業の一部を実際に行った。

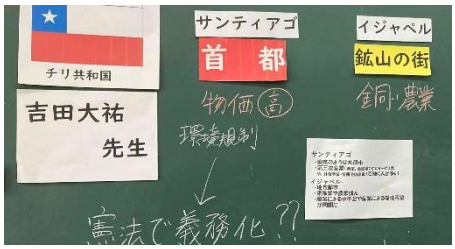
【自己評価】

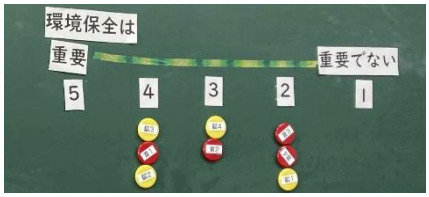
12. 苦労した点	【本時（第５時）について】 ・チリにいる協力隊員さんに協力してもらうことは８月の前半研修の際に原案としてあったが、それを本単元の「南アメリカ州」の内容とどのように絡めていくかという点がなかなか決まらなかった。 ・９月に行われたチリの憲法草案についての国民投票をどのように公民を学習していない１年生に資料として提示するか、わかりやすい説明の仕方を工夫した。 ・Google Meet を使って教室とチリのゲストティーチャーをつないだが、画面越しでゲストティーチャー側に教室の様子がリアルになかなか伝わらないので、生徒の発言や話し合いの内容を教師側で復唱してゲストティーチャーにも伝わるようにした。 【単元を通して】 ・チリと日本に１３時間の時差があり、事前打ち合わせや資料のやりとりがすぐにで

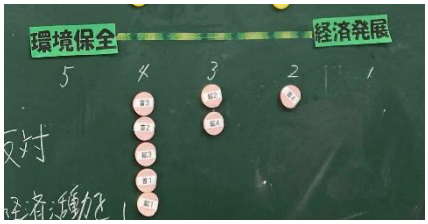
	きなかった。言語の問題もあり、インタビューの相手がなかなか決まらなかった。 ・第３時の「南アメリカで活躍する日系人」の授業では、ボリビアの協力隊員さんにオンラインで参加していただいたが、チリと同様時差があるので事前打ち合わせや当日の授業を日本の中学校の何時間目に行うかという準備に時間がかかった。 ・ボリビアとチリからゲストティーチャーをお招きするということが決まったのちに単元を通してどこでその時間を設定するかということを検討した。教科書の内容を踏まえつつボリビアとチリのことにも触れる授業を作るというバランスが難しかった。
13. 改善点	・イジャペル市とサンティアゴ市の市民であるという設定で班での話し合いを行ったが、前時でもう少しこの都市の様子を紹介しておくと話し合いがより具体的になったと感じた。特にサンティアゴについては前時までの情報が少なかった。 ・南アメリカ州すべての国を取り上げて単元を構成することは不可能なので、今回は協力者がいるボリビアとチリを主に扱ったが、教科書で大きく取り上げられているブラジルのアマゾン川流域の生活についても、現地の方の声をオンラインで紹介できればよかった。
14. 成果が出た点	・本単元より前のアフリカ州、ヨーロッパ州の単元でもゲストティーチャーによる授業を行っていたため、初対面の先生に対しても質問したり意見を述べたりするという経験を生徒が積んで慣れていた。 ・本時（第５時）の吉田先生とよりスムーズなやりとりができるようにするために社会科の授業以外の朝の会にもオンラインで登場していただいた。 ・教科書の内容を先に扱って第１時、第２時の授業を行ったので、南アメリカ州の様子を資料から大観したのちに発展的な内容の学習を行うことができた。 ・イジャペル市の市民とサンティアゴ市の市民というグループ分けで話し合いを行ったが、当初はさらにもうひとつのクレプト市という農業がさかんな街のグループも設定していた。クレプト市でのインタビューがうまくいかなかったということもあり２つの市に絞ったが、結果的に話し合いや意見の比較はスムーズにできた。 ・生徒の話し合いの発表は当初 Google form を使って発表させる予定だったが、オンラインでゲストティーチャーが常に画面に映っているほうがよいという判断をしてあえて黒板にマグネットを貼るという形にした。画面の切り替えがあると生徒の集中が切れてしまうので、黒板を併用するという形にしたことでそれを防げた。
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	オンラインでゲストティーチャーが登場した第３時と第５時について 【第３時】 オンラインでボリビアのオキナワ市の「日ボ第一学校」の様子や移住地の話を聞く生徒の様子→

<table>
<tr>
<td></td>
<td>



<u>生徒の学びや変容</u>
・地球の裏側に日本にルーツをもつ人たちがたくさんいるということに驚いた。
・北アメリカ州の学習でも移民について学んだが、日本の歴史と移民が関わっているということが稲嶺先生のお話でわかった。
・日本とつながりが少ない地域だと思っていたので意外な感じがした。
・教科書に載っている移民のグラフだけではわからないことを知ることができた。

【第５時】


↑オンラインでチリのイジャペル市とサンティアゴ市の様子についての話を聞く生徒


←　班での話し合い①
赤マグネット　サンティアゴ市
黄マグネット　イジャペル市


←　班での話し合い②

<u>生徒の学びや変容（ワークシートより）</u>
・イジャペル市の人のインタビューを聞いて、環境保全のルールをたくさん決められてしまうと今やっている仕事が続けられないという立場の人もいるということを知った。地球のために環境を最優先すればいいという簡単な話ではないと感じた。
・経済発展を優先したほうがいいという意見をもつ人は、現在の自分たちの暮らしがまだ苦しいのではないかと思った。
・同じ国の人の意見でも、憲法草案の国民投票の結果の割合が地域によって変わるというのが驚きだったが日本でも同じようなことはあるかもしれない。
・環境のことを優先したり、SDGs について考えられる人は、生活に余裕があり今いる自分以外の更に広い視野をもっているからそういう意見を出せるのかなと感じた。</td>
</tr>
<tr>
<td>16. 授業者による自由記述</td>
<td>　ゲストティーチャーとして協力してくれる方が先に見つかっていたところから授業を組み立てていったが、どのように教科書の内容と関連付けるかということを考えるようにした。国際理解教育／開発教育の授業は、特に資料となるものが授業者によって違って幅が広いということを以前から感じていたが、汎用性が高い指導案を書き、単元を構成することで他の学校や先生でも実践できる形にしたいと考えた。本単元が終了</td>
</tr>
</table>

	したのちに、本校の特別支援学級の生徒に対してもゲストティーチャーが授業を行ってくださった。この社会科の指導案の内容をかみ砕いたダイジェスト版のような形であったが、特別支援学級の生徒も関心をもって授業に取り組めていた。 コロナ禍でオンラインのツールを使った授業の可能性が一気に広がり、現在の中学１年生はすでに小学校時代からタブレットを授業で自然に使っている世代になるので、「地球の裏側に住んでいる人とリアルタイムで意見交換を行う」ということにまったく抵抗がない様子だった。現地の人の話を生徒は自然に「活きた資料」としてとらえ、日本の自分たちには関係ないという意見はひとつも出ず、自分たちにもつながる事象であるという捉え方をして考えることができていた。 資料の提示方法は、事前研修でも先生方にご指導いただいたが、本単元の授業を作っている上でもとても悩んだ。憲法草案についての国民投票があったというタイムリーな事象を扱いたいという思いはゲストティーチャーと共通してもっていたものの、草案の論点が環境保全のみではなく、人権についてなど幅広いものだった。そのため今回の「南アメリカ州」の単元を貫く課題の「環境問題について持続可能な開発の観点から考える」ことの資料として果たして的確であるかについては判断が難しいと感じた。 指導案を作り、何度も添削して細かく見ていただき、授業を実践して振り返るという機会はなかなか個人では作ることができないと思います。本研修に参加させていただいたことに心から感謝申し上げます。アドバイザーの先生方、地球ひろばの運営の皆様ありがとうございました。

参考資料：「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料　社会科」
「令和３年度版　新しい社会地理　教師用指導書」　東京書籍
「チリを知るための６０章」明石書房
「社会科教育　２０２２年１０月号」明治図書出版
JICA 横浜海外移住資料館　沖縄移民企画展示「雄飛ふたたび　－沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆」
El Mostrador - El primer diario digital de Chile - Noticias, reportajes, multimedia y último minuto.（チリの情報検索サイト）

前時の復習　この写真はどこのもの？

1

チリ
イジャペル市
銅の廃棄物

2

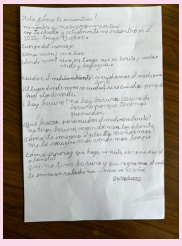
JICAボランティア　ダンディ
【環境教育】

3

活動　①リサイクルの啓発活動

4

活動　②環境教育プログラムの作成



5

“サンティアゴ”

“イジャペル”

6

首都　南米の大都市"サンティアゴ"
サンティアゴ
チリの首都
サンティアゴはチリの首都で、雪に覆われたアンデス山脈とチリ海岸山脈に囲まれた盆地にあります。同国最大の都市でもあり、旧植民地時代に中心
詳細
プロジェクトに追加
サンティアゴの観光スポット

7

首都　南米の大都市サンティアゴ

8

首都　南米の大都市サンティアゴ
ビッグマック指数
チリのビッグマックの値段は
円
※日本は３９０円

9

首都　南米の大都市サンティアゴ
ビッグマック指数
チリのビッグマックの値段は
５４２円
※日本は３９０円

10

首都　南米の大都市サンティアゴ

1

首都　南米の大都市サンティアゴ
絶景
首都を一望する丘の頂上へ
徒歩２時間半を
90秒で
サンティアゴ
街歩きを
見てみよう！

2

農村部　銅鉱山の街“イジャペル”
イヤペル
イヤペルは、チリ中部コキンボ州チョアパ県の県都である。イヤペル川流域に位置し、チリの国土が東西に最も狭まる 地域にある。
ウィキペディア
詳細
プロジェクトに追加
他の人はこちらもチェック

3

農村部　銅鉱山の街“イジャペル”

4

1

サンティアゴ
- 東京のような大都市
- 第三次産業（商業、金融業などのサービス業や、外食産業・情報通信産業）で働く人が多い

イジャペル
- 地方都市
- 銅鉱業や農業盛ん
- 農業による水不足や鉱業による環境汚染が問題に

2

3

4

5

実際

6

“サンティアゴ”
主張は
環境規制すべき？
or
環境規制はいらない？
チリ各地で起こるデモ

7

“サンティアゴ”
主張は
環境規制すべき！
チリ各地で起こるデモ

8

“鉱山都市”
主張は
環境規制はいらない！
チリ各地で起こるデモ

9

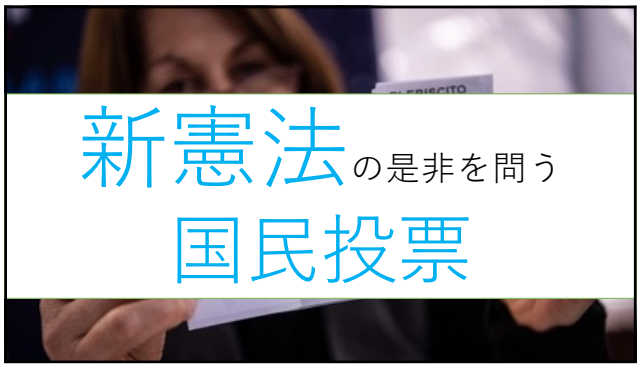
紹介したい1つの出来事。

1

2022年9月

2

3



4

チリの情報サイト“elmostrador”

5

1つの論点

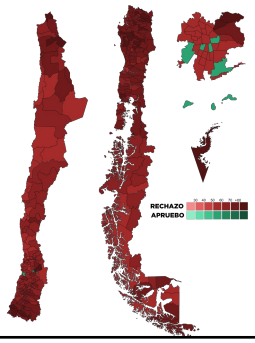
環境規制を憲法で義務化する

6

2022年9月
環境規制の義務化を含む新憲法の
是非を問う国民投票

7

結果は

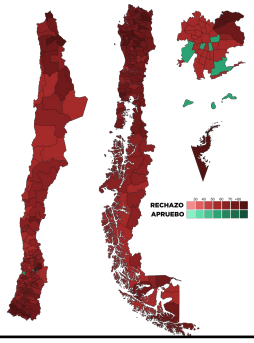


8

結果は

反対多数

賛成は首都サンティアゴ
の一地域のみ



9

結果をもう少し分析…

10

新憲法草案に反対多数の中でも
Q比較的賛成が多かった地域はどんな地域？

全体　反対61.89%

…反対64%以上

…反対58%以下

①砂漠気候…鉱業

②地中海性気候
…サービス業

③西岸海洋性気候
…農業

④ツンドラ気候
…観光業

11

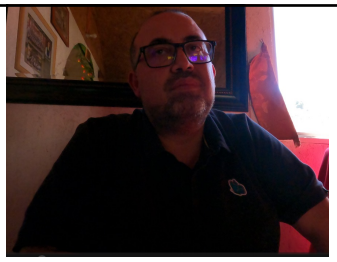
サンティアゴ在住の語学教師

Chica

12

私は当然（**環境規制に）賛成の立場**よ。選挙の結果には、ショックを受けて落ち込んだわ。社会が大きく変わるチャンスだったのに。現在チリでは鉱業による水の汚染が進んでいて、サンティアゴのような都市部では大気汚染が進んでいるし、イジャペルのような街ではSequíaと呼ばれる干害もある。子どもたちのために環境を守るためにも、改革が必要だった。例えば、今は水の利権はその土地の持ち主がもっていて、その水を使って自分の利益をあげている。それが、水の汚染や不足に繋がっているけど、水はそもそもすべての人々の生活に必要なもの。政府が公正に管理を強めるべきよ。新しい憲法案には、環境も含めた素晴らしい条文が沢山あったのに。チリ国民は過剰に保守的なところがあるのよ。

13



鉱物関係の仕事に従事

Miguel

14

（環境規制に）反対の立場だ。急に変化を求めすぎている。チリ国民の多数が、農業や鉱業に従事している。しかし、今回の憲法は首都の一部のエリートたちがつくったものだ。水の利権に関する国の管理を強めようとしているが、曖昧な部分が多すぎるし、急激な変化を強いるところは民主主義ではない。確かに鉱業では水を多く使うのは事実だ。しかし、鉱業は我が国を支える主要産業だ。そして、何より我々が欲しいのは自由だ。自由に経済活動を行う権利だ。なんでもかんでも国の管理権を強めようとするやり方は、共産主義だ。農業、鉱業に従事する多くのチリ国民が自分たちの商売を守るために反対票を投じたのも当然だ。

15

正解はない。

16

17

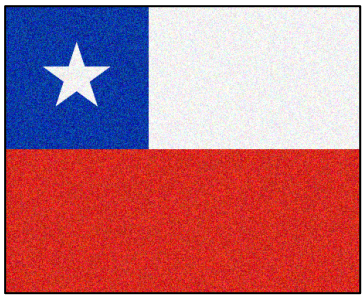
変わらなかったんじゃない。
変わらないことを決めた。

18

南アメリカ州⑤　～開発の進行と影響～

１年　　組　　番　名前

吉田大祐先生　勤務している国（　　）



学習課題

チリの（　　）と（　　）の人の意見を比較し（　　）と（　　）について考えよう

１　班での話し合い①　　立場（首都　・　鉱山の町）

「環境保全は大切だと思うか？」　１～５のどれかに○をつけよう

環境保全は大切だと思わない←　１・２・３・４・５　→環境保全は大切だと思う

理由

２　吉田先生のお話を聞いて…　　班での話し合い②

「チリは経済発展と環境保全のどちらを優先するべきか？」　１～５のどれかに○をつけよう

経済発展　←　１・２・３・４・５　→　環境保全

理由

３　地域により環境保全に対する考え方が違う理由を考えよう

４　本時の感想